

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-32695

(43) 公開日 平成5年(1993)2月9日

(51) Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
C07K 7/06	ZNA Z	8318-4H		
5/10		8318-4H		
7/08		8318-4H		
7/10		8318-4H		
// A61K 37/02	ACB	8314-4C		

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平3-214280	(71) 出願人	000183370 住友製薬株式会社 大阪府 大阪市中央区道修町2丁目2番8号
(22) 出願日	平成3年(1991)7月30日	(72) 発明者	松田 道生 宇都宮市緑5丁目12番1号
		(72) 発明者	坂田 洋一 宇都宮市山本町253番77
		(72) 発明者	三室 淳 宇都宮市山本町262番53
		(72) 発明者	金子 宗聖 宇都宮市睦町4番12号チサンマンション 中央公園608

(54) 【発明の名称】 ペプチド化合物

(57) 【要約】

【目的】 プラスミノーゲン活性化因子とその阻害因子との複合体形成を阻害する新規ペプチド化合物を提供する。

【構成】 下記一般式〔1〕：

A - B - Asn-Arg-Arg-Leu-C - D [ 1 ]

〔式中、Aは水素原子又はC<sub>2</sub> からC<sub>4</sub> のアルカノイル基を表し、B及びCは単結合もしくはそれぞれ一定範囲のペプチド残基を表し、Dは水酸基又はアミノ基を表す。〕で表されるペプチド化合物。

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-86673

(43) 公開日 平成6年(1994)3月29日

(51) Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
C12N 9/64	Z	8931-4B	C12N 15/00	A
A61K 37/54	ACB	9281-4B	5/00	B
C12N 5/10				
15/58	ZNA			
// C12N 1/21		7236-4B		

審査請求 未請求 請求項の数 7 (全14頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平4-125595  
 (22) 出願日 平成4年(1992)4月17日

(71) 出願人 000183370  
 住友製薬株式会社  
 大阪府大阪市中央区道修町2丁目2番8号

(72) 発明者 松田 道生  
 宇都宮市緑5丁目12番1号

(72) 発明者 坂田 洋一  
 宇都宮市山本町253番77

(72) 発明者 三室 淳  
 宇都宮市豊郷台2丁目82番地6

(72) 発明者 金子 宗聖  
 大阪市此花区春日出中3丁目1番98号  
 住友製薬株式会社内

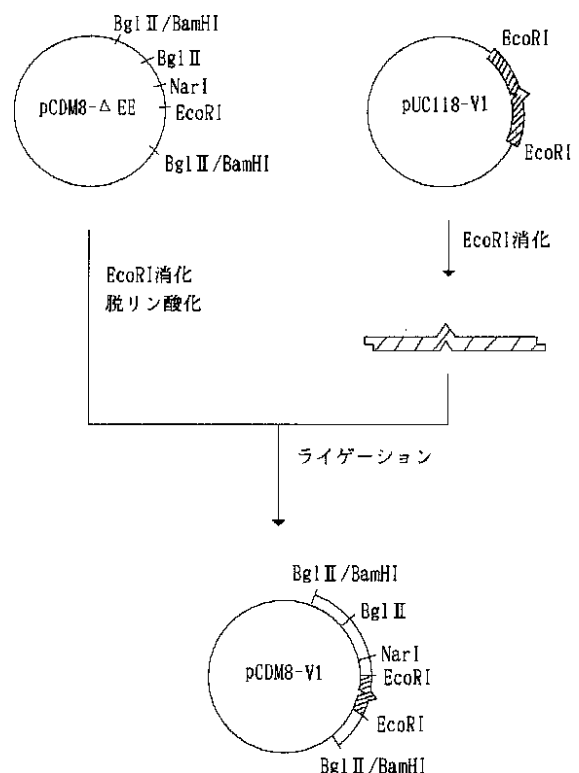
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 新規な t - P A 改变体

(57) 【要約】

【目的】 組織プラスミノーゲン活性化因子阻害因子との複合体形成能の低下により、生体内での活性持続性が向上した新規な t - P A 改变体を提供する。

【構成】 組織プラスミノーゲン活性化因子のクリンゲル2領域に存在する正電荷アミノ酸の少なくとも一部が、正電荷を有しないアミノ酸に置換された t - P A 改变体。



(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-231594

(43) 公開日 平成8年(1996)9月10日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
C07K 14/475		8517-4H	C07K 14/475	
A61K 38/46	ACB		C12P 21/02	J
C12N 15/09	ZNA		A61K 37/54	ACB
C12P 21/02		9162-4B	C12N 15/00	ZNA A
// (C12P 21/02)				

審査請求 未請求 請求項の数 14 0L (全19頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願 平7-297020	(71) 出願人	390035404 グリュネンタール・ゲゼルシャフト・ ミト・ベシュレンクテル・ハフツング ドイツ連邦共和国、52078 アーヒエン 、ツイーグレルストラッセ、6
(22) 出願日	平成7年(1995)11月15日	(72) 発明者	シュテファン・ヴネント ドイツ連邦共和国、52076 アーヒエン 、フランドリッシェ・ストラッセ、18
(31) 優先権主張番号	P4440892:7	(72) 発明者	レジナ・ハインツエル-ウイラント ドイツ連邦共和国、64295 ダルムシュ タット、ライヒエンベルゲル・ウエー ク、16
(32) 優先日	1994年11月17日	(74) 代理人	弁理士 江崎 光史 (外3名)
(33) 優先権主張国	ドイツ(DE)		最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 繊維素溶解性の血液凝固阻害性質を有するたん白質

(57) 【要約】

【課題】 繊維素溶解性の血液凝固阻害性質を有するたん白質

【解決手段】 本発明はプラスミノゲンを活性化するアミノ酸配列のN-及び(又は)C-最終末端でトロンピン又は因子Xaを阻害するアミノ酸配列と結合する、繊維素溶解性の血液凝固阻害性質を有するたん白質に関し、遺伝子工学によって生成されたたん白質は血栓溶解剤として適する。

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-231595

(43) 公開日 平成8年(1996)9月10日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
C07K 14/475		8517-4H	C07K 14/475	
A61K 38/46	ACB		C12P 21/02	J
C12N 15/09			A61K 37/54	ACB
C12P 21/02		9162-4B	C12N 15/00	A
// (C12P 21/02)				

審査請求 未請求 請求項の数 12 0L (全14頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平7-298570	(71) 出願人	390035404 グリュネンタール・ゲゼルシャフト・ ミト・ベシュレンクテル・ハフツング ドイツ連邦共和国、52078 アーヒエン 、ツイーグレルストラーセ、6
(22) 出願日	平成7年(1995)11月16日	(72) 発明者	シュテファン・ヴネント ドイツ連邦共和国、52076 アーヒエン 、フランドリッシェ・ストラーセ、18
(31) 優先権主張番号	P4442665:8	(72) 発明者	ゲルト・ヨーゼフ・シュテフエンス ドイツ連邦共和国、52072 アーヒエン 、ムッフエッター・ウエーク、50
(32) 優先日	1994年11月30日	(74) 代理人	弁理士 江崎 光史 (外3名) 最終頁に続く
(33) 優先権主張国	ドイツ(DE)		

(54) 【発明の名称】 繊維素溶解性のトロンピン阻害性質を有するキメラたん白質

(57) 【要約】

【課題】 繊維素溶解性の血液凝固阻害性質を有するキメラたん白質。

【解決手段】 本発明はプラスミノーゲンを活性化するアミノ酸配列のC-最終末端でトロンピンを阻害するアミノ酸配列と結合する、繊維素溶解性の血液凝固阻害性質を有するキメラたん白質に関する。

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-102488  
(P2003-102488A)

(43) 公開日 平成15年4月8日(2003.4.8)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	FI		テマコード <sup>*</sup> (参考)
C12N 15/09	ZNA	C07K 14/47		4B024
C07K 14/47		C12P 21/02	C	4B063
C12N 5/10		C12Q 1/02		4B064
C12P 21/02		1/68	A	4B065
C12Q 1/02		A61K 31/7088		4C084

審査請求 有 請求項の数 11 0L (全21頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願 2002-186606 (P2002-186606)	(71) 出願人	394002800 アメリカ合衆国
(62) 分割の表示	特願 平3-516266の分割		アメリカ合衆国 バージニア州 22161 、スプリングフィールド、ポート・ロ ーヤル・ロード 5285
(22) 出願日	平成 3年9月10日 (1991.9.10)	(72) 発明者	ラビン,ジェフリー エス. アメリカ合衆国メリーランド州、ロッ クビル、バルチモア、ロード、ナンバ ー、ケー、44、2020
(31) 優先権主張番号	582,063		
(32) 優先日	平成 2年9月14日 (1990.9.14)	(74) 代理人	100064285 弁理士 佐藤 一雄 (外1名)
(33) 優先権主張国	米国 (US)		
(31) 優先権主張番号	655,502		
(32) 優先日	平成 3年2月15日 (1991.2.15)		
(33) 優先権主張国	アメリカ合衆国 (US)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 非分裂促進競合性 HGF 拮抗剤 (HGF / NK1)

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 HGF の活性と特異的に拮抗する新規な端部切取り形の肝細胞増殖因子 (HGF) の提供。

【解決手段】 還元条件下の SDS-PAGE で約 20k d の見掛け分子量を有し、かつ天然の肝細胞増殖因子の最初のクリングルドメインに対応する 1 つのクリングルドメインを有する肝細胞増殖因子変異体タンパク質 (HGF / NK1) であって、特定のアミノ酸配列セグメントを含んでなる、肝細胞増殖因子変異体タンパク質。